

令和4年度第1回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：令和4年5月20日（金）午前10時から正午

場所：白井市役所本庁舎2階災害対策室2・3

出席者：【委員】

関谷 昇会長、野水 俊夫副会長、鎌田 元弘委員、手塚 崇子委員
黒添 誠委員、秋本 茂雄委員、近藤 恭子委員、宇賀 博委員、
酒井 啓史委員、福田 純子委員、若旅 千秋委員

【事務局】

池内企画政策課長、武藤主査、多納主任主事、高橋主任主事

傍聴者 4名

1. 開会

2. 議題

(1) 施策評価の1・2次評価結果について

【会長】

議題1について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料1から資料2に沿って説明。

【会長】

たくさん御説明いただいたので、なかなか混乱しているところもおありかもしれませんが、今、事務局から、今年度予定している四つの施策についての1次評価、2次評価について、あと事業概要についてお話をいただきました。

今年7月に我々が、勉強会をして議論して評価するのは、その四つの事業を対象とします。

我々がやる評価は3次評価ということになりますので、2次評価が内部評価、自己評価であるのに対して、3次評価は外部評価ということで、市役所の外部の視点から評価するということになっています。

ですから、以上を踏まえたことで、資料2の1、これが施策評価シートで、まず施策内容と、それから1次、2次評価の内容を把握する基礎資料になります。

それを補足するのが資料2の2の資料で、より具体的な条件等が盛り込まれています。

それから今回の評価の中では、本格的には取り上げられませんが、参考資料2というのが事務事業評価というものとしてあります。これは各施策の下にぶら下がっている

個別の事業ということですが。

資料2の1の施策評価シートの1ページを御覧いただければと思いますけれども、この施策評価シートの3の取組状況、これの枠の中のそれぞれ取組1、2、3とありますけれども、例えば取組1であれば、1のところの下に構成事業というのがあります。この構成事業が要するに事務事業に当たります。

これは施策の下にぶら下がっている、かなり個別で具体的な事業ということになりますけれども、これらを集めたものがこの参考資料の2になっていますので、各施策の取組がどんなふうに進められていくのかということを知るに当たって、この事務事業を確認するというのも大事な作業になっていきます。

具体的にどんな事務事業をやって、この施策を進めようとしているのかというふうなことをイメージする上で非常に参考になりますので、その点も合わせて御確認をいただければと思います。

いずれにしても、7月の会議に向けて、我々にまず課せられているのは、今言ったこの2の1、2の2、それから参考資料の2、これらを中心にまず四つの施策について、一通りまず御理解をいただく。

それを踏まえて、まず7月の会議の前に、この辺を確認しておきたい、聞いておきたいということがありましたら、それを資料2の3の事前質問事項というものに書いていただいて、それを7月の会議のときに回答をいただいて、その回答の部分を含めて7月の会議を回していくということになりますので、まず今日の説明と、それからこの後、委員各自で今言った資料を改めて確認いただいて出てきた疑問点、聞いておきたいこと、これを資料2の3に書いて、事務局に6月3日までに提出をするようお願いをいたします。

それらを踏まえて7月、この後、グループを二つに分かれていただいて議論をしていくということになります。

どの施策を評価したいのかということ、今、希望を取られていると思いますので、それぞれ希望を出していただいて、事務局でグルーピングをして当日を迎えるということになります。

私と副会長は、両方出るということになっていますので、その辺も御理解をいただければと思います。

というふうな流れで回っていきますけれども、今の説明を聞いて、既にここはどうなっているんだ、ここはもっとこうしたほうがいいのかという議論や意見をいろいろお持ちかと思いますが、それについては7月のときに、より本格的に皆さんから御意見を頂きたいと思っておりますし、議論も深掘りしていきたいというふうに思っていますが、今日の段階では、7月に向けた評価作業を踏まえた上で、全体としてこの辺を確認しておきたいといったようなことがありましたら、今日のところは、まずその点に限って確認をさせていただければと思いますけれども、全体に関して、この辺がよく分からないとか、

気になっている点がありましたら、説明をいたします。

【委員】

6月3日までに出す事前質問事項についてなのですが、グループが二つに分かれるということで、2枚とも、どちらのグループになっても6月3日までに提出するのか、それともグループがそれまでに分かって、どちらか自分が該当するほうだけを提出すればいいのかを教えてくださいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

外部評価の実際の担当ではないものについても、御質問を頂ければ、実りある外部評価になると思いますので、中心は恐らく見ていただく施策になるかと思うのですが、余力があれば、実際質問したほうがより良さそうだというのがあった場合に頂ければ非常に効率的になると思います。

【会長】

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

今回のスケジュールを見ていまして、資料1の一番最後なのですが、勉強会及び意見交換会の議題といたしまして、時間がずれて2時間という形になっています。

私も昨年、何回も出ていて、勉強会と意見交換会は平成31年度にあって、それから2年とか3年やっていないのですよね。

ですから、31年度にやったときには、午前、午後かかってやって、それでも時間が足りないくらいの感じがしていたのですが、皆さん、また新しく変わられて、私も今の説明を聞いていまして、なるほど、そういうことだったのかと今頃、分かった。もうどうしようもないのですが、2時間で大丈夫なのでしょうかというのが気になっていて、お願いします。

【事務局】

確かに前回であれば、1施策についてこの倍の時間をかけていたわけですが、今回検討する前から、恐らくコロナはこの頃もあるだろうと予測をしていました。コロナ禍での実際集まってやるといったところもあると考えると、食事も含めて1日というよりは、半日というのが現実的ではないのかというのがまずありました。

その中でいかに効率的に行うかについても、意見交換会で、例えば前回、各グループでテーマが二つだったのが、場合によっては、そこは、例えばAグループで二手に分かれたときに、テーマをそれぞれ分けて一つずつやっていただいで、最後に発表し合うとか、そういったやり方などを検討したいと考えています。

今までは2時間かけて、二つのテーマを設定してワークショップをやっていただいたところなのですが、そのテーマを絞るなり、多少その時間を配慮はする必要があるかとは考えているところです。

【会長】

意見交換するときは、時間がある程度足りないという傾向がこれまでありましたけれども。コロナ対応ということで、この方針を固めたときには、その辺の配慮ということがあったようですので、取りあえずこのような形で進めさせていただいて、足りない部分については、また何らかの形で補足をするなりということで考えていければと思いますので。運営の形としては、このような形で進めさせていただいて、足りない部分はまた別途メールなりで、そのような形で調整をさせていただきたいと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

【委員】

白井はとても小さな町で、白井の中では解決できない問題もたくさんあると思うのです。企業庁が絡んできたり、県や国が絡んできたり。

例えば企業庁の中で問題が起きたとして、住民が苦情を言ったとしても、白井では対処できないのだから、企業庁に言ってくれとか、県に言ってくれとか、そういう対処の仕方が何回かあるのです。

一番、象徴的なのが、市役所の前を通る道路がそこで途切れてしまって、ずっと解決課題で、一体、何年たったら解決するのだというところで、もう行政能力がないのという感じがして、非常に白井が馬鹿にされるというような感じがします。

だから農業なんて言ったら、白井の中では解決できない問題ばかりなので、対処できない。

例えば税金の問題でも、いろいろな会社とか入っているけれども、白井には法人税が一つも落ちないですね。東京都が全部独占してしまって、それで地域格差が拡大するような傾向です。

だからもう地域として、地域格差と世代間格差で、日本の将来はないと言われているようなところで、外部との問題を解決するかというのが、各自治体の課題だと思っています。やっぱりそういうところに少し触れないと、肝心な問題が全然解決できないと思うのです。だから外部との関係で、白井ではどういう対処をしようとしているのかというところも書いてほしいです。

【会長】

事務局、いかがでしょうか。

【事務局】

外部との関係といったところは、今までも副会長からも、外部とのポジションですとか、そういったところも頂いているところです。

そこは一つ進めるに当たって、今後のポイントとしては一つ考えていくところではあるかと思います。

【会長】

外部評価ですので、こういった施策を進めていくに当たって、何でこの問題が解決しないのか、何が原因なのか、それをどうすればいいのかという、かなり踏み込んだ議論をぜひしていただければと思います。

なかなか内部だと出づらいうようなところというのは、外部評価だからこそ出せる部分もあると思いますので、その辺は忌憚のない御意見を頂戴できればと思いますし、それを踏まえた上で、白井では何ができるのか、できないのかとなると、外部にどういうふうな働きかけをしていかなければいけないのかということも、また改めて見えてくるのかと思いますので、その辺は一体どうなっているのだ、何が原因で何がどう進まないのかといったあたりも、ぜひ解き明かしていっていただければというふうに思っています。

ほかにはよろしいでしょうか。今日の段階で。

【委員】

確かに委員が言われるように、なかなか白井だけで解決できない問題が多いし、この中にもあった道路の件でも、残り4.3%の用地を買収するのに、残っている土地というのは百数十坪という状況ですけれども、自分たちでできないことを市としていろいろやってみてもらって、これも大事ですけれども、できる事柄については取り組んでいこうということも大事ではないかと思っておりますので、そこを切り分けながら進めていければというふうに自分自身でも思っていますので、よろしくをお願いします。

【会長】

ほかにはいかがでしょうか。

前の任期から継続して評価に当たっていただく委員におかれましては、大分この評価シートがブラッシュアップされて、よりロジックモデルも組み込まれて、どの課題についていつまでに何をやるのか、それが何でうまくいっているのか、いっていないのかといったあたりを可能な限りあぶり出せるようなシートにしていただけて、まだまだ課題はあるとは思いますが、そういった形で今回評価に臨むということになりますので、その点も重視していただければというふうに思います。

改めて今期から加わった委員に関しては、どんなふうな評価になるのかという、まだまだ不安点もあるかもしれませんが、ぜひこの評価をしていくに当たって、もし今日の段階で何か気になっていることがありましたら、ぜひ御発言をいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

【委員】

一つだけ、先ほども委員長がおっしゃっていたように、今回正式に伺えて、すごく内容が入ってきやすかったのを感じました。

それは私の理解度、勉強不足だったのかということも思ったのですが、やはり先ほど委員のお話にもあったように、評価シートと参考資料がすごく良くできていたりするので、私たちにとっても分かりやすいもので、御説明もとても分かりやすく、評価するのに前

よりもスムーズに入っていけるというのが感じまして、事務局の方にいいものを作っていたと感謝を申し上げたいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。

【会長】

もし、ほかにないようでしたら、これから評価をしていくに当たって、もう一つ大事な評価基準というものがあるのですね。

これが、この後の議題の二つ目で少し御確認をいただくことになっています。その基準との説明、確認を踏まえた上で、また御質問を頂戴したいと思いますので、一旦議題の一つ目は以上とさせていただいて、議題の二つ目、外部評価ということで、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料3-1、3-2に沿って説明。

【会長】

宿題になっていたこの評価基準についてですけれども、資料3の1を御覧いただきながら、これを念頭に置いて評価をいただく。

評価は、各委員個人とする評価と、それから今度、この審議会全体として出す評価の両方あります。

まずは各委員で評価をしていただくということになりますけれども、その評価をするに当たっての基準として、こういったものでいくという御提案ですけれども、裏について、御質問、御意見があればお願いしたいと思います。

【委員】

今、ざっと拝見してきて、例えばAとBだったら、同じような文面で一部が違っていたりというような感じがあると思うので、違っているところだけ下線を引いていただくとかすると、こちらとしては分かりやすいかなというのがあって、CとDだと、外に出ているここが違うのではないかと、それをもしお願いできればと思います。

【事務局】

見た目については、頂いた意見等を踏まえて、ほかにも何か見目で分かるようなところは、工夫させていただきたいと思います。

【会長】

この点、いかがでしょうか。

【委員】

いろいろ事務局の説明が大変分かりやすく、きれいにというか丁寧に資料が作られているのだなと感心して聞いていましたが。今の評価基準を見させていただきますと、全般的に基本は、会長が御専門の協働に関して深掘りした、評価構造になっているのだという

のが改めて気づきました。

一番、グラフチャートの末端の参考資料2の事務事業の評価の中で出てくる項目、必要性とか有効性とか効率性とか。

例えば、さっきの市民の方から御提案があったような行政としての専門性であるとか、分析力、情報力だとか、時間の管理とか、コスパの問題とか、コスパを離れた継続性の問題とか、スピード感のサステインとか、そういう観点の評価は、今回ループリックの中にあまり出てこないのですけれども、それは各自に入れ込んで評価をなさйтеということでもいいのですかね。

そうすると、全体的に協働の施策の評価シートでいうと、4番の施策の展開であるとか、1次評価が大体協働の観点で書かれているので、その協働の観点を外部としてどうやって評価をするかというのが、中心になるような気がするのですね。今のループリックだと。

それでいいのかという、それも多分、決定事項なので、それはその評価の方法があると思うのですけれども、行政の持つ専門性なり、行政の役割としての効率性とか、継続性とかいうような問題というのはあまり入ってこない。

末端になると入ってくるのですけれども、これはヒエラルキーの上部でも、割と私は大事なのかというふうに思いますが、そこら辺は勝手に解釈をして入れていいのか。そこは統一したキーワードが入っていないくて大丈夫なのか。そういう感想です。

【会長】

ありがとうございます。

その点、事務局、いかがなのでしょう。

【事務局】

今おっしゃいました効率性の視点だとかそういったところが、実際の評価。恐らく成果ですとか、そういったところで、そういった効率性といったところも踏まえての判断になるかと思うのですが。あとは、取組状況とかが実際、今の目標実現に資する取組といったところを踏まえてになるかと考えているのですが、ここだとまだ取組状況のところでも、もう少し反映をさせたほうがいいというようなお考えといったイメージでしょうか。

【委員】

そこは入れ出すと、また大変な作業になるとは思いますが、ある程度そういう観点は自分で立てた上で、評価をしていいということであれば入れられますし、今回は、末端の事務事業評価の中でやられているのだから、それはもうあって当然なんだ。事業全体の大きな戦略の中で、そこはあまり問う必要がないという評価なのだというのだったら、逆にそれはそれで明確だというふうに思いますが。

さっきも市民の方が、なかなかスピード感がないとか、お金がだんだんなくなる中でどうやって選択と集中をやっていくかとかという、きわどいところが求められるのだと思うのですけれども。

協働はいいけれども、行政はいろいろな情報を集めて、そこからどうやって集約して、専門性をどうやって、民間の力をどうやって使って、効率を上げて継続していくかという、そういう枠が作れるかみたいなことにつながらないと、評価にならないという視点があるではないですか。

協働の体制ができたというのは素晴らしいということだけれども、協働も会長の御専門で、まともにされると、効率なり専門性なりが、本当に次元が高く実現できるということもあるかもしれないのですけれども、それには本当にさらに協働の分析力と、さらにその力を上げるためのいろいろな施策が必要なのだと思うのですよね。

少し議論は、市側で、今回の評価はこういう観点なのだよと、大きな目標を与えていただければ。

だから総合計画というのは、全部入るわけですね、評価が。総合計画の進め方に関する、特に協働とか庁内協働とか、市民協働とか、そこに重きを置いた評価なのだといったことにすれば、評価がやりやすい。

そのときに見るのは、施策評価シートの4番なり、1次評価はどうやって庁内協働を進めていくのか、市民協働をどうやって進めていくかと書かれてあるのは、そこについて評価をしていくということなのかというふうに思いました。

【事務局】

確かに委員のおっしゃられた効率性の視点は、実際、大変重要な視点であると考えております。

事務事業評価レベルの1次評価と、各部の2次評価においては、その視点も交えた、捉えた評価になっておりますので、外部評価におきましても、こちらの評価基準のおもて、1ページ目の成果の中で、効率性の視点も加えていただければと思います。

実際、事務事業レベルを評価するにおいては、必要性とか妥当性のほかに、効率性の視点というのも大変大きなウェイトを占めておりますので、施策レベルにおいても同様のことは言えると思いますので、大変急で恐縮なのですけれども、この評価基準の成果においても、1次評価の進捗状況や、出遅れている取組があれば、原因が的確に捉えられているかの中に、効率性の視点も加えて、議員の皆様方には評価していただければと思います。よろしく願いいたします。

【会長】

これは評価基準については、これまでの外部評価の中でもいろいろ議論はあったのですが、総合計画の進捗管理の中に本格的に抱き合わせでこれを回していくというには、まだまだなっていないというところもありますので、総合計画を今、回して、また次期の総合計画を立てていくこととなりますけれども。そのプロセスの中で、この評価基準についても定めていくというふうな方向でいっているというのは、私自身は認識しておりますので、今回、暫定的にこういったものを作成いただいておりますけれども、今後評価をし

ながら、細部については詰めていく必要があるかというふうには思っています。

しかも今、委員がおっしゃったように、どの水準で評価するのかによっても基準も変わってくることもあるのです。

事務事業評価、施策評価、行政の評価、それから協働の評価とか。いろいろ視点によって評価基準というのは変わってくる場所もありますから、本来は総体として整理をして、基準を作っていないといけない場所もありますので。その辺は、今回には間に合いませんので、今後の進捗管理の中でこの評価基準については、おいおいブラッシュアップさせていくということを確認させていただきたいと思います。

今回については、これ今後、修正する可能性はありますか。

【事務局】

今、効率性の視点が欠けていたということですので、改めて評価基準の案を、その視点を加えたものをまたお送りしたいと思います。

【会長】

今日、御意見頂いたことについては、可能な範囲で反映をさせていただいて、今年度については、それを基に各委員が審議会として評価をしていくということにさせていただきたいと思います。

評価をしていく中で、ここの基準を明確にしておかなきゃいけないということが出てくるかと思しますので、それも込みで進めていくことにしたいと思います。

ですから、この項目に十分に入っていない部分については、各委員がまずこういう項目はなかったけれども、自分はこういう点で評価したということを明確にこの評価表の中に記載いただくということに、今年度についてはさせていただきたいと思います。

そのような形で運用上のやり方になりますけれども、今年度については、そういった形で、御確認をさせていただきたいと思います。

【委員】

頂いた3の1の裏側のどこかに、改善の項目の「優れている」の中に、補完性の原理を踏まえた自治活動に基づき、ここら辺はそのとおりだと思うのですが。その下には、平易な表現で用いられる、市民に分かりやすい記載とあるので、こういう評価項目も、なかなか補完性の原理を踏まえた市民自治というのは、会長の講義を1時間くらい聞かないと、少なくとも分からないと思うので、ここら辺もあまり難しくない方がいいのですよね。と思いました。御検討ください。

あと、効率性だけではなくて、行政としての専門性であるとか、新機軸をどうしたりとか、新規性をどう出していくとか、継続性とか、そういう広い中で効率性の問題はあると思うのです。そこも参考にさせていただければと思います。

【委員】

初めての評価なので確認をさせていただきたいところがあるのですが。施策の評

価シートで、いろいろ課題を中長期的ということで出されて、そういったものを課題の認識をされていらして、それについては、今後の進め方で幾つか具体案が出されていると思うのです。

ただ、内容を拝見した中で、例えば「こういうことができていないから、こういうことをやっていく」という、いわゆる裏返しというか、「できていないものは認識しています。だけど、こうやっていきます、これをやります」という解決の仕方では、不十分に感じます。「具体的には、こうやってそれを解決する」というところが見えていて、初めて評価になるのかなと思う部分があるのです。全部ではないですけども。

例えばそれをヒアリングさせていただいた中で、「ここには書いていなかったのだけれども、こういうことをするのです」ということで考えていくのか、それともあくまでもこの内容で見て評価していくのか。

あとは、事前の質問の中に、「このように書いてあって、これを具体的にはどうしますか？」ということをお尋ねして、ヒアリングの前の時点でその内容を伺って、それでやるのかというところが分からなくて。

【事務局】

まずは事前質問の中で、とにかくそこで先に、いろいろとこういうことはどうだとか、まずはそこで上げていただければと思います。当日、さらに突っ込んだ意見になるので、その前段のところの確認事項ですとか、そういった今回の疑問に思ったところがあるものは先に挙げていただいて、回答も事前にお送りする予定ですので、それを踏まえた上で、さらに突っ込んだ当日の議論になると思いますので、事前に頂ければと思います。

【委員】

分かりました。ありがとうございます。

もし、そういうことであるならば、今後における書き方で、事務局さんでもし見ていただいたときに、回答が裏返しのようにになっている場合は、具体的に書いていただけるようになると、そういった手間も時間が省略できるのかと思いました。

【事務局】

施策評価の書き方といったところの課題かと思われま。それは今年ではなくて、来年度どうするかといったところで、もまさせていただきます。

【会長】

この評価シートは、どんどんブラッシュアップを重ねてきておりますので、ぜひ、またそういう御指摘の部分がありましたら、評価をしながら併せて伝えていただいて、また次につなげるようなものにしていただければと思います。

【委員】

今の話、例えば分かりやすさというところで、市民に分かりやすい記載となっているかというところに、例えば昨年できなかったことを今回できますと書いてあるのだけれども、

「行政の分析力がないのだと思います。それが分かりやすい表現として書かれていません」という評価をしていただいたら、今年やれるのではないですか。

だから全てを来年に回すのではなくて、今年できるところは、先ほどおっしゃっていたように、それぞれの観点で入れられるものは、大きい括りの中に入れていけばいいのではないですかねと思いました。

【会長】

まさに御指摘のとおりだと思いますので。これで確定ではないので、実際の評価をするときまでに、今のでもそうですし、先ほど専門性とか新規性、継続性、効率性という行政の施策事業の評価をする一般的な基準というのはありますので、それをもちろんしっかり反映させていただく。

もちろん内部評価と外部評価の違いはありますけれども、基本的な評価基準というものを、可能な範囲で入れていただくと同時に、今年から既に回していけるようなことについても、併せて検討いただければというふうに思います。

あと表現も、確かに御指摘のように分かりづらいところもありますので、可能な限り平易な、分かりやすい表現でもって記載の工夫をしていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

外部評価シートの記入は、7月28日の会合の時点で記入して提出しなければいけないのか、提出するタイミングというのは、どのタイミングになるのでしょうか。

【事務局】

実際にこの外部評価のシートを皆さんで見合うのは、その28日なのですが、1日の方は大分余裕があるというか、20日の後は大分ぎりぎりになってしまうかと思うのですが、できれば事前に頂いて、こちらで資料として、当日配布させていただくなり、事前にお送りさせていただければと思いますので、当日よりも前に提出期限ということでお示しをさせていただければと考えております。

【会長】

第2回の前に、評価シートは出すのですか。

【事務局】

評価シートは、28日に最終的には使います。失礼しました。第3回で使用します。

【会長】

3回のときに使用するのです、それまでに間に合うように外部評価シートを提出していただく。

【委員】

記入までですということですね。

【会長】

はい。

【委員】

少し質問なのですけれども、ここに書いてある市民という言葉があったのですけれども、この市民というのは、本当に住んでいる方だけなのか、例えば白井市に働きに来ている、例えば隣の市から来ている方も含めてのものになるのかというので、気になったので質問させていただきました。

【事務局】

基本的には「市民」の定義は白井市民ですが、施策の展開に当たっては、白井市民だけではなく、関わる方も今後のポイントにはなるとお思いますので、白井に関わっている人も対象の一つに入れることになるかと考えております。

【会長】

ほかにはいかがでしょうか。

よろしければ、今日、頂戴した御意見を踏まえて、評価基準については、今年度用としてまとめをしていただければと思います。

それでは、議題の二つ目は以上とさせていただきます、最後議題の三つ目、その他ということで事務局からお願いいたします。

【事務局】

本日はお忙しい中、また、これから3次評価を進めるに当たりまして、大変貴重な御意見を頂きましてありがとうございました。

事務局から、1点御報告があります。

現在、今年度4月1日から、事務事業の見直しプロジェクトチームを設置しております。

そちらの趣旨なのですけれども、第5次総合計画後期基本計画が始まりまして、全ての計画事業、本日説明させていただきました施策にぶら下がる戦略事業、それと合わせて各分野の教育ですとか、福祉ですとか、都市計画の分野の計画事業につきまして、必要性から効率性、有効性等、全て総点検して、コスト面を中心に見直しをしております。

見直しをするに当たりましては、本審議会からも答申がございましたとおり、庁内横断的な視点が必要ということで、各部の代表の課長1名なのですけれども、合計8名からなるプロジェクトチームを設置して、現在見直し作業をしております。

次回の7月1日と20日の外部評価においても、そちらのメンバー8名に同席していただきますので。特に意見等や発言等はありませんが、参考とさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【会長】

今日、予定されておりました議題については、以上となりますけれども、先ほど申し上げましたように、今日、御確認いただいた各種資料を踏まえて、事前にまず質問をしていただく。

先ほども触れましたけれども、質問についてはどんなものでも構いません。このシートに即したものでなくてももちろん構いませんので、この問題について、白井の場合はどうなっているのか、どんな問題認識、課題意識というものを持っているのか、何をやって、どういうことがうまくいっているのか、いっていないのか。いろいろな角度から照らしていただければと思いますので。あまりこのシートの形にこだわらなくても構わない、そういう質問をぜひ含めていただければと思います。

外部評価というのは、まさに行政職員ではなかなか思いつかないような、あるいはなかなか触れられないような、そういう視点というものをどんどん盛り込んでいくというのが一つの醍醐味でもありますので、その辺は遠慮することなく、どんどん質問等をしていただいて、それから7月の勉強会、ヒアリングのときにも、突っ込んでぜひ議論をしていただければと思います。

ということで、ほかに何か委員の皆様からございますでしょうか。よろしいでしょうか。

評価ということですがけれども、今の自治体とか地域の置かれている状況を踏まえて、どんなことでもいろいろ突っ込んで御指摘いただく、それから皆さんのそれぞれの経験、お立場から言えることもどんどん言っていただく。

それから今回、あまりヒアリングシートには反映されていませんけれども、例えば今、世界的な潮流としてSDGs、そういう取組というものもどんどん展開されて、それを地域、自治体ではどうやっていかなければいけないのか。

既にいろいろやってきている部分もある。もっとこれからやっていかなければいけない部分もある。そういったことも照らしながら、こういう総合計画というものをどんどんブラッシュアップさせていく必要がありますので、そうした潮流等々も踏まえて、自由に御意見等を頂戴いただければと思います。

今日の審議会については以上とさせていただきたいと思います。お疲れさまでした。